

背景・課題

「知的財産推進計画2021」では、新型コロナの影響により大きく加速しているデジタル化の流れに伴い、様々なデジタルアーカイブ資源の潜在需要が顕在化する中、オープンなデジタルコンテンツが日常的に活用され、様々な分野の創作活動を支える基盤となるデジタルアーカイブ社会の実現を図っていくことが重要であるとされている。また、日本におけるデジタルアーカイブの「構築・共有」と「活用」の推進は、文化の保存・継承・発展だけでなく、コンテンツの二次的利用や国内外への情報発信の基盤となる取組であるとして、引き続き、日本が保有する多様な文化資源のデジタルアーカイブ化を進めるとともに、デジタルコンテンツが幅広く利活用されるための環境整備を推進することが重要であるとされている。

事業内容

- 我が国の多様な文化遺産に関する情報を、誰もがいつでも容易にアクセスできる環境を整備し、文化財の保存・継承・発展を図り、コンテンツの利活用や情報発信を進めるため、文化遺産のデジタルアーカイブ化を推進
- 国指定等文化財や全国の博物館・美術館等の情報を集約し、求める情報を容易に検索できる機能を持ったポータルサイト「文化遺産オンライン」を企画運営
(主に以下の情報を収集)
 - ① 全国の博物館・美術館等の所蔵品 (掲載件数: 270,500件
所蔵館数: 247 館)
 - ② 全国の博物館・美術館情報 (掲載館数: 約1,000 館)
 - ③ 文化財情報や多様なコンテンツ (地域文化財、無形文化財動画等含む)
- 多言語化 (英語表記)、ジャパンサーチ等との連携の推進
- 文化財が消失等した場合に復元するための資料として活用するため、国指定等文化財の詳細記録(設計図等)をデジタルアーカイブ化



アウトプット(活動目標)

- 文化遺産オンラインの情報掲載件数

令和5年	令和6年	令和7年
271,300	272,000	272,500

- 文化遺産オンラインの年間訪問回数 (R3 370万回)

令和5年	令和6年	令和7年
390万回	400万回	410万回

アウトカム(成果目標)

- 初期 (令和5~6年頃)
- ・文化財情報の充実による利用者の拡大
- 中期 (令和7年頃)
- ・諸取組みによる文化財に親しむ機会の創出
- 長期 (令和10年頃)
- ・教育利用、海外での閲覧等、利用層の拡大

インパクト(国民・社会への影響)、目指すべき姿

国民が広く我が国の歴史と文化に対する理解を促進し、もって文化財の保存・活用・継承に資するよう、文化財に親しむ機会の充実を図る。